僕が本にしたかった物語

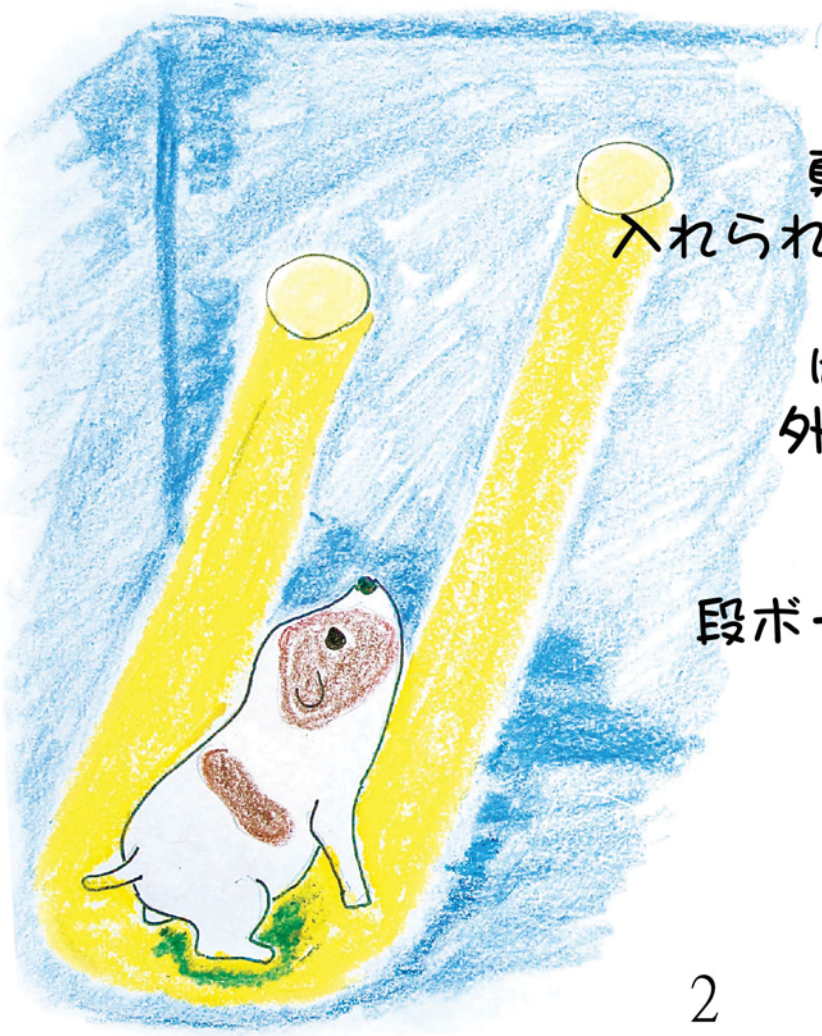
優しい時間をありがとう

絵と文／猫田 ワン太郎

ここはどこだろう
気持が良いな。
暖かくて、静かで、おだやかで、
なつかしい声が聞こえてくるよ。
ここは心の中なんだ。

僕はどこから来たのか忘れちゃったよ
お母さんのおっぱいの柔らかさは
覚えているけどね。

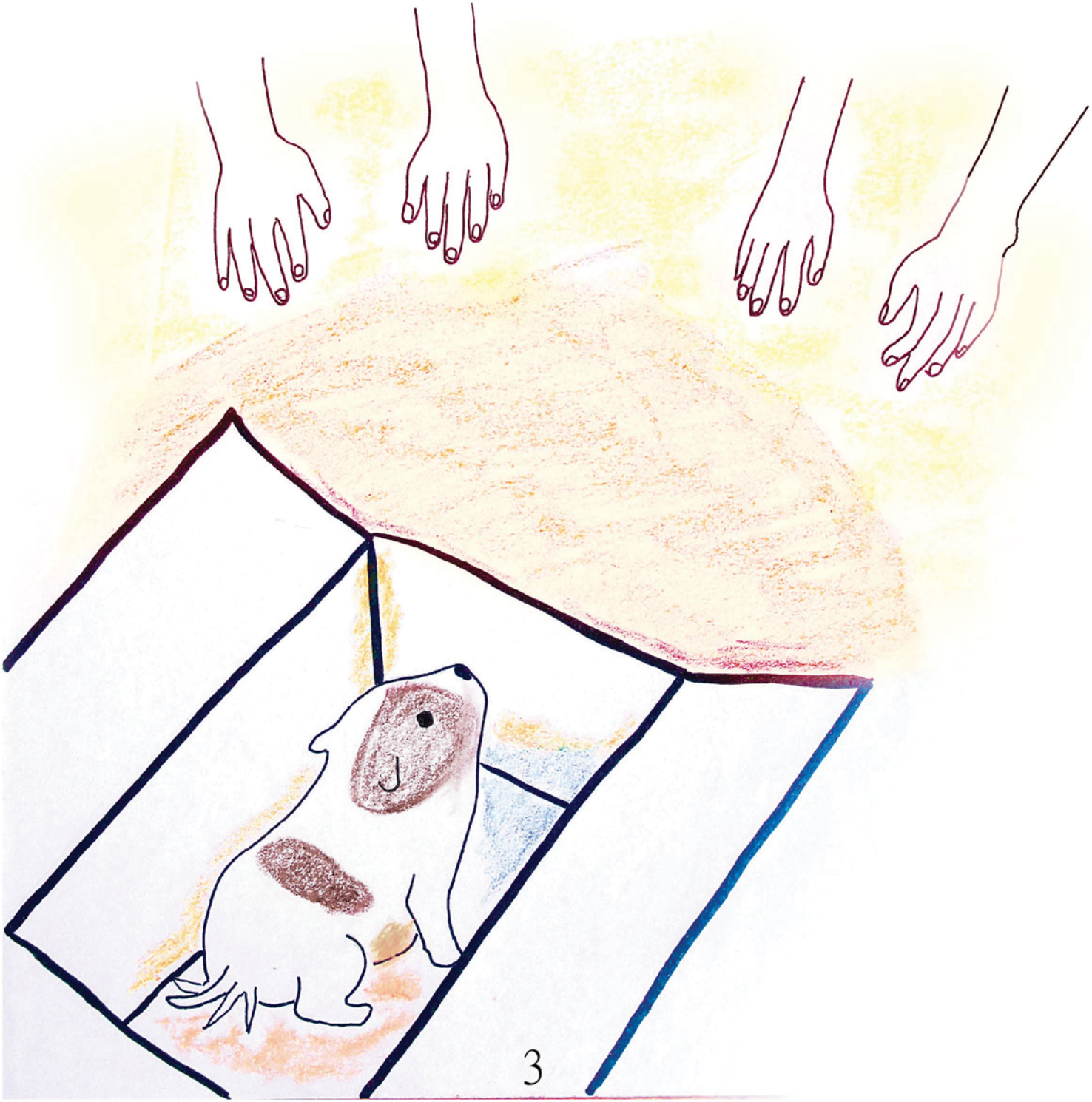
僕は荒川さんちにもらわれてきたことから
覚えてるよ。



真っ暗な段ボールの箱に
入れられて運ばれてきたんだよ。

ほんの小さなスキマから
外をのぞいていたんだよ。

家族のみんなが
段ボールのまわりに集まって
ワイワイ話していたね。



突然フタが開いて、優しい家の匂いと光が
段ボールの中に入ってきてびっくりしたよ。

お兄ちゃんが、お母さんが、
「わー！可愛い、なんて可愛いの！」って
言ってくれたよね。

僕はシッポしか振れなかったけど、
「こんにちは」って言ったつもりだったんだよ。

お父さんが
「名前をつけなくてはね。さてどうしよう。う～ん」

お兄ちゃんが「キョウヘイがいいね！」と
言ってたね。

お母さんも「キョウヘイか。なんか弟が
できたみたいだね。」と言ってくれたよね。

お父さんは「よし、キョウヘイで決まりだな。」と
言ってくれたよね。

あの頃は毎日楽しかったなぁ。

ボール遊び、追いかけっこ。

毎日遊んでいたなぁ。

朝、みんなが出ていく時「行ってくるよ」と言って
僕の頭をなでてくれたね。

僕は毎日みんなどこへ行くんだろう？
いつ帰って来てくれるのかなぁ？
と思っていたよ。

みんなが順番に帰ってくると
僕の仕事はみんなをげんかんまで
迎えに行くことだったね。

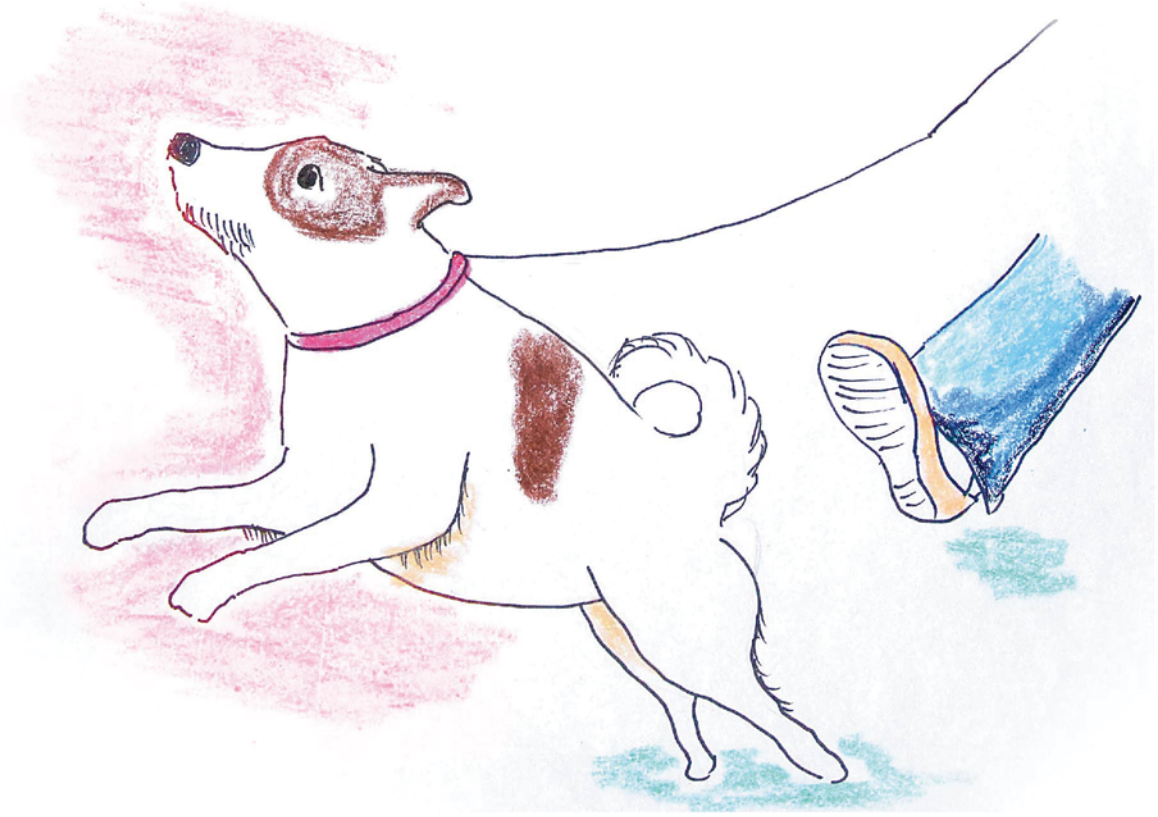
楽しい散歩の時間が終わると
みんなでテレビを見ていたね。

その時は僕はうたた寝を
していたなぁ。

お兄ちゃんやお父さんに散歩に遠くまで
連れていってもらったこともあったね。

お母さんの買い物にも
ついていったことがあったね。

楽しい時間は早く過ぎるよね。



お兄ちゃんは、学校をいくつも卒業して
大人になったよね。

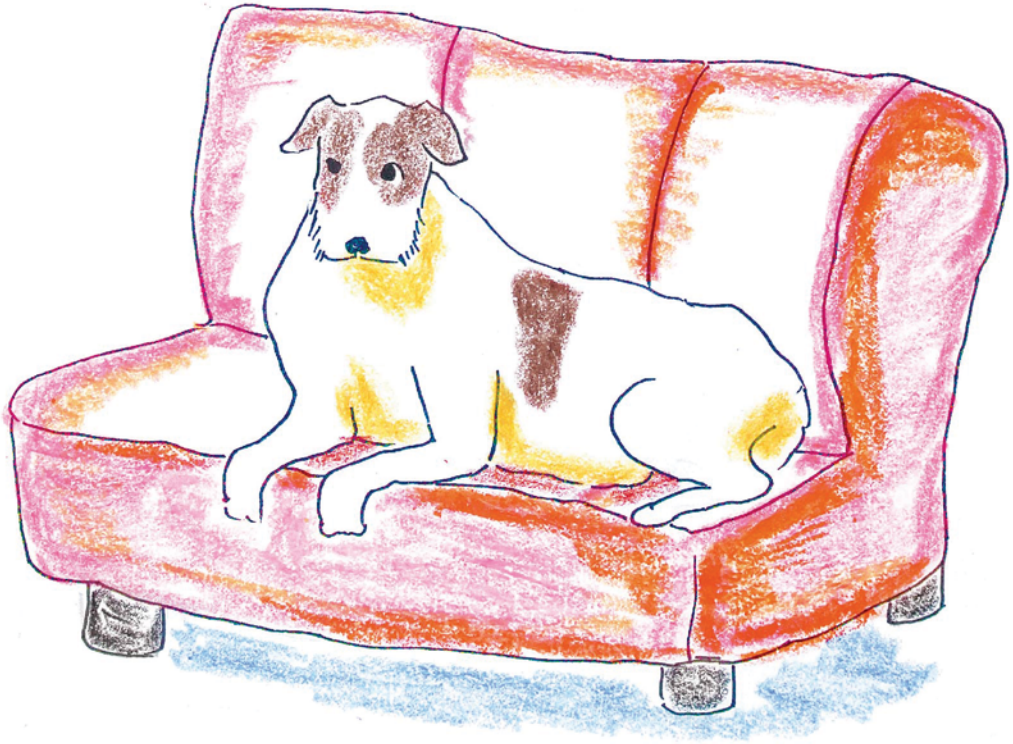
お母さんはいつも僕を子供扱いしていたけど、
僕は大人になっていたんだよ。

僕はみんなより
人生をかけ足で走り抜けていくんだよ。

僕が10歳になった時は、
お父さんより年上になったんだよね。

あの頃は僕は家で一番年上になった時だったよね。
一番いばっていたじきだったよね。

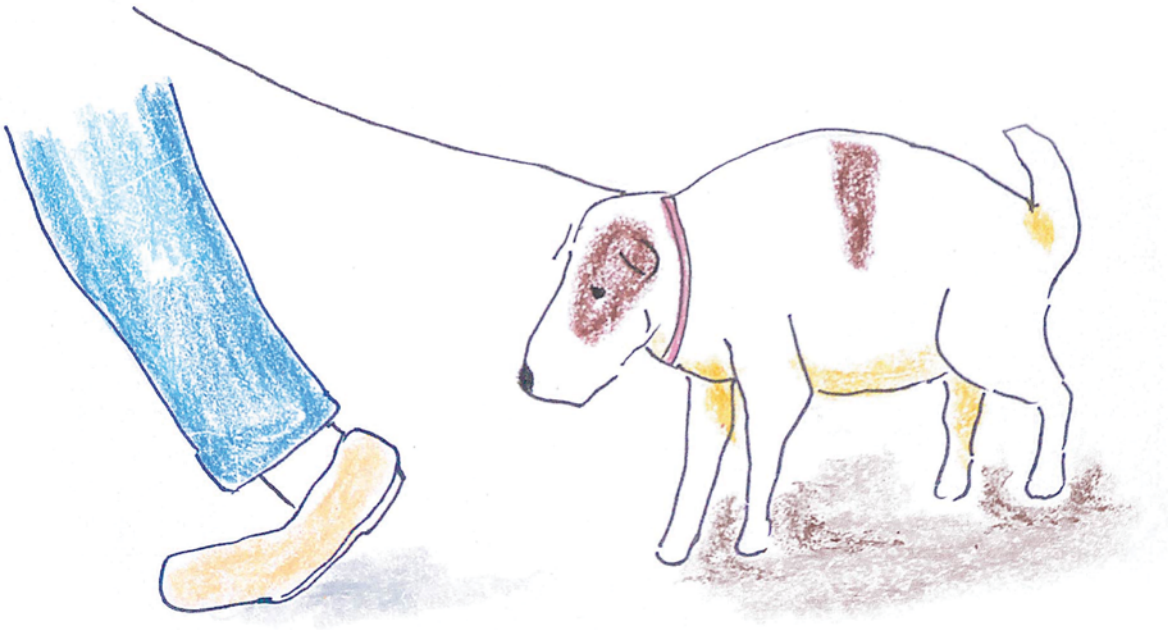
いつもいごこちのいいあのソファの上が
僕の指定席だったよね。



その頃を過ぎたころからかなぁ、
僕はボール遊びはしなくなったね。
だってすぐに疲れちゃうから。

14歳のころからかなぁ、ちょっと散歩の時に
足が痛くなってきてあまり歩けなくなったね。

皆の散歩の速度は変わらないのに、
僕はどんどん遅れ気味になったよね。



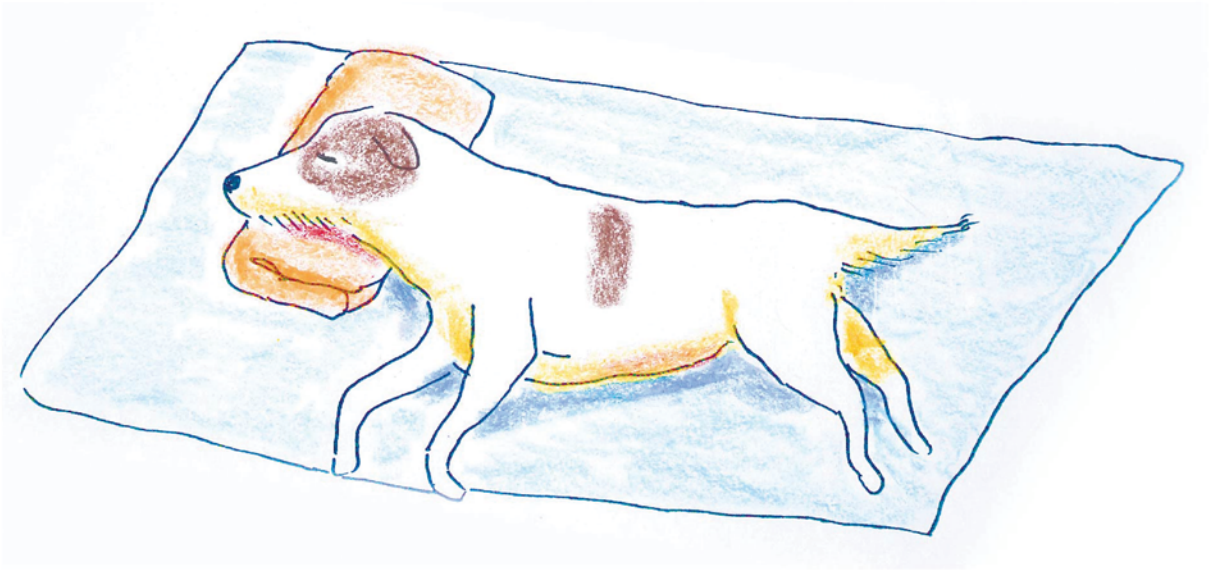
15歳になったころには、首が痛くなってきて
足にも力が入らなくなったけど、
お母さんが起きる時に
手伝ってくれるから助かったよね。

お父さんが抱いて外に連れ行ってくれたから、
トイレが楽だったよ。

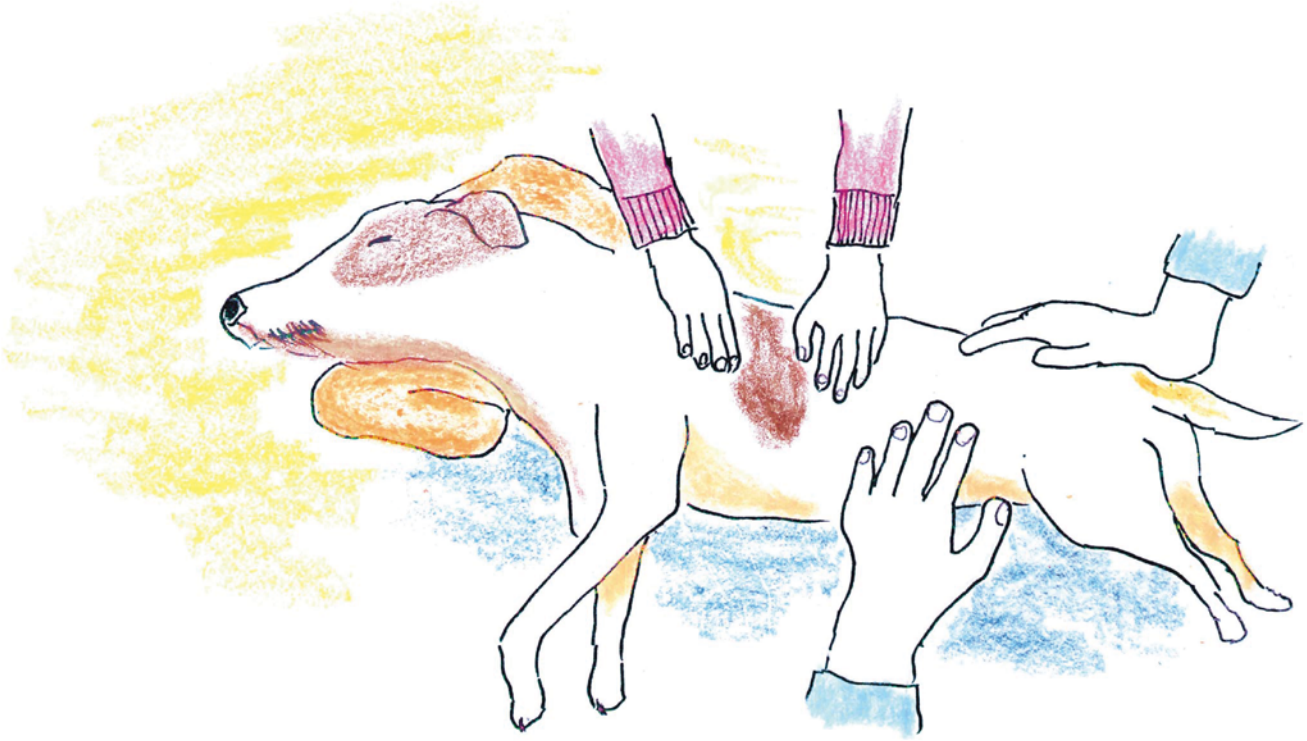
17歳になった時には、
毎日が静かに過ぎていたよね。

僕はお母さんがしいてくれたバスタオルの上で
横になってみんなを見送りしていたね。
みんな出かける時に必ず僕の頭をなでてくれたね。

18歳の時は、みんなとテレビを見ていても
段々音が小さくなってきた感じがしたよ。
お父さん、お母さんが体を優しくさすってくれたね。
気持ち良かったよ。



19歳の時だよね。みんなが僕のまわりにいてくれたね。
僕はもう動けないけど、お母さんが朝起こして
くれるから朝がわかったんだよ。
お父さんが会社から帰ってくると
僕をなぜてくれるから夕方が分かったんだよ。



僕は体が軽くなってきてしまったよね。
きっと神様が迎えに来てくれるじゃんびだよ。
今日もみんなが優しく触ってくれているぁ。

今日は何の日だろう。
みんなが僕をのぞき込んでいるよ。
目をつむっていても、お父さん、お母さん、
お兄ちゃん、みんなが分かるよ。

お父さんの声が聞こえるよ
「キョウヘイ優しい時間をありがとうな。」
お母さんの声が聞こえるよ
「キョウヘイ楽しかったよ。いつもいっしょだったね。」
お兄ちゃんの声が聞こえるよ
「キョウヘイいつも見送ってくれてありがとう。」
みんなが今日僕を見送ってくれるんだね。
僕一人をみんなが見送ってくれるんだ。
僕は体がだんだん冷たくなってきたよ。
でもさみしくないよ。怖くもないよ。
これからみんなの心の中へ入って行くんだね。
僕はみんなの心の中にいつもいるんだ。

いつもいつもいっしょだよ。
優しい時間をこれからもいっしょだね。
これからもよろしくね。

私はこの本を、お母さんが
子供達に本を読んであげる機会になることや
動物を飼ったことがない人が動物を飼う
楽しさを理解するきっかけになったり
親子や夫婦が家庭で自分たちの
動物を飼っていた思い出を話せるきっかけに
なればいいなあと思い作りました。

定価(税込)　ごえん（ご 縁）

感想文をいただけたら嬉しいです。

E-mail/info@midoriac.com

「優しい時間をありがとう制作委員会」責任編集／森島隆司
〒458-0916 名古屋市緑区有松町桶狭間愛宕西23-28
TEL (052)624-2815　http://www.midoriac.com/